秋の一品料理
豚肉の味噌漬け焼き

材　料（材料4人分）

- 豚薄切り肉……300ｇ
- 味噌床
  - 味噌……400ｇ
  - 砂糖……大さじ８
  - 酒………大さじ４

下準備　よく混ぜ合わせた味噌を底の広い器にのばし、豚肉を１枚づつ広げ、上に味噌をのばし５～６時間おく。

作り方　フライパン又はホットプレートにクッキングシートを敷き、薄くサラダ油をひく、よく温まったらペーパー等で味噌をふきとり、豚肉を両面焼く。

コメント　作業療法で患者様と一緒に作ってみました。味噌の風味が香ばしくて、大好評でした。

外来診療のご案内

●祝日は休診です

	受付	診療
午前	AM 8：30～11：00	AM 9：00～12：00
午後	PM 1：00～ 4：00	PM 1：30～ 5：00

※第一・第三火曜日午後に大分大学医学部の寺尾教授による診察があります。
詳細につきましては、受付窓口又は、外来担当者へお尋ね下さい。

診療科	午前・午後	曜日	月	火	水	木	金	土
精神科	午前	初診	市岡 森内	西口 市岡	西口 森内	西口 森内 山下	西口 市岡 森（第一金以外）	休診
		再診	宇都宮 西口 森内	西口 市岡	宇都宮 西口 森内	西口 森内 山下	西口 市岡 森（第一金以外）	
	午後	再診	西口 森内	市岡 寺尾教授（第一・第三）	西口 森内	休診	西口 市岡	休診
心療内科	午前	初診・再診	小関	休診	小関	休診	小関	休診
	午後	再診						
内科	再診		休診	今永	休診			

編集後記
秋号発行にあたって

病院の三大行事の春祭り、盆踊り、運動会が無事、楽しく終えることができ、ほっとした面と寂しい面があります。これから寒くなりますが、秋の過ごしやすさで英気を養い、しっかり食べて、頑張りたいと思います。

精神科・心療内科・内科

医療法人 起愛会 宇佐病院

〒872-0102　大分県宇佐市大字南宇佐 1655

TEL　0978-37-0485㈹
FAX　0978-37-0256

■宇佐病院へのアクセス
- ●バスをご利用の方は「神宮前バス停」下車が便利です。
- ●宇佐駅より神宮前バス停まで約10分、神宮前バス停より徒歩約5分

医療法人起愛会　宇佐病院広報誌
ひだまり
秋号
2012.10

編集・発行：宇佐病院広報委員会　医療法人起愛会 宇佐病院広報誌　2012年10月22日発行20号

病院理念

宇佐病院は自然を愛し、人を愛し、地域に根ざし、
精神保健・医療・福祉に貢献します。

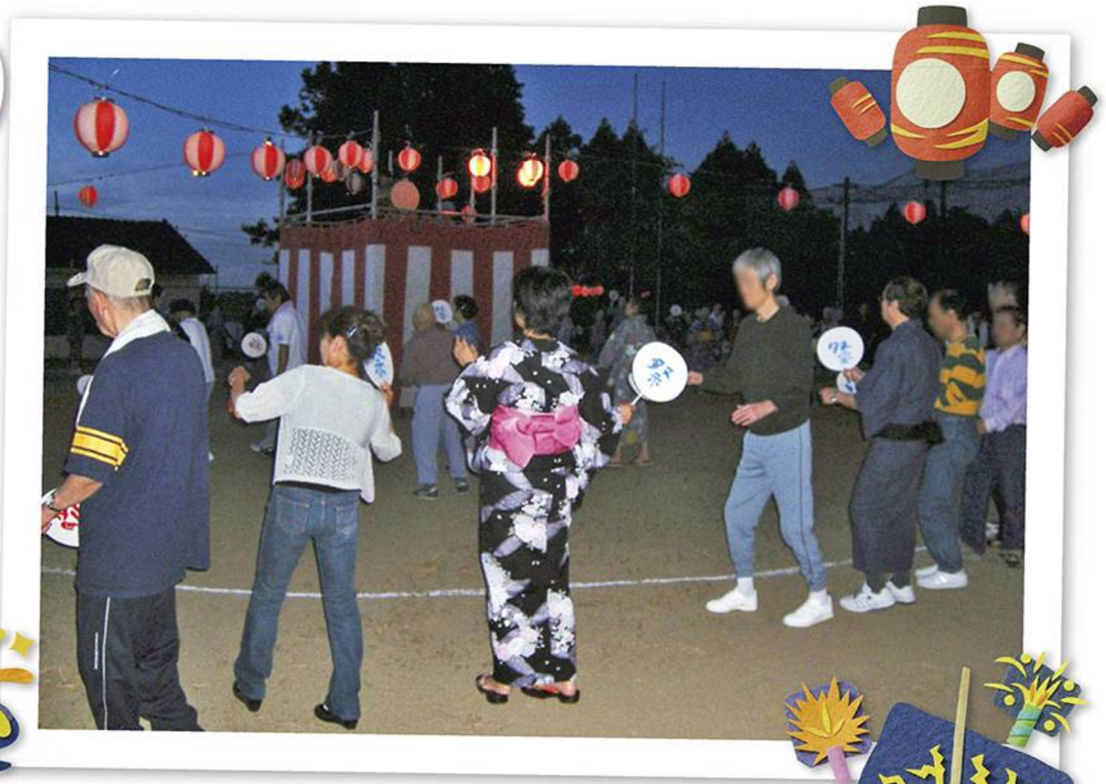
基本方針
- 緑と大気に包まれた心にゆとりのある精神科病院。
- 明るく、温かい、愛の心を持つ医療の提供に努めます。
- 全人的医療、包括医療、地域医療を目指します。
- 患者様の権利擁護に努め、社会復帰への継続的な支援の提供を目指します。

今年度より当院では、環境委員会が新設され、花壇の整備や庭園の清掃などに力を入れています。
今回は、きれいに咲いたひまわりを表紙に掲載させていただきました。

イベント報告

当院が開催しているイベントの報告を行います。
今回は 盆踊りと運動会をご紹介します。

盆踊り



8月20日盆踊り大会を行い、やぐらを囲んで、浴衣を着て、気分を味わいながら、みんな上手に踊っていました。

盆踊りの後には、打ち上げ花火で楽しんでいただくことができました。

運動会

10月10日天候にも恵まれ、運動会を開催することができました。

大玉転がしでは、自分より大きな玉を一生懸命転がし、相手チームより早く次の人に渡そうと必死に頑張りました。

お猿のかごやでは、さまざまな衣装で笑わせてくれました。歌に合わせてのお猿の踊りもユニークでしたね。来年も楽しみですね〜。

専門分野

毎回違う当院の専門分野にスポットライトをあててご紹介しております。
今回の専門分野は、当院の心理室からのお知らせです。

当院の心理室からのお知らせ

カウンセリングにおける治療枠

カウンセリングでは、安心できる場所でじっくりとお話をしていきます。そのために、心理面接室での 50分（状態等に応じて 30分）という枠組みを設け、患者さまが十分にお話できる空間と時間を保障して実施していきます。

“話す”という行為の中に現れる主体性

「カウンセリングってどのようなことをするの?」と尋ねられることがよくあります。その度に、どう応答しようか・どう応答できるのかと、考えを巡らせているのが現状です。おそらく今後も、明確すぎる答えにたどり着くことのないまま、様相を変えていく疑問・生き続ける疑問として、構築し続けていくもののように思います。

その中で、今回は、カウンセリングにおける“話す”という行為の主体性について考えてみたいと思います。

カウンセリングは、話を聴いてもらうと捉えられることもありますが、聴いてもらうという受身的な行為ではないように感じています。面接室でのカウンセリングを行う前にも、「何を話そうか」「どのように伝えようか」「分かってもらえるだろうか」などの様々な思いを巡らせながら、話す内容を頭の片隅に置いてこられる方も多いのではないでしょうか。

他者に対して話をする（または話さない）という行為には、思っていること・考えていること・感じていることをことばで表現するという、話す側の主体性が現れます。話すことは、個人の内部（ココロ?アタマ?カラダ?）にあるものを外部に出すということでもあります。内部にある状態では、明確化されていなかったり、複雑すぎたり、混沌としていたりすることもありますが、話をするという外への働きかけを通して、“一緒に考えていく”という共同作業へと移行していくことができます。それが、カウンセリングの入り口なのかもしれません。

そのようなことばでのやりとりを通して、視界が開け、その人らしく一歩ずつ歩んでいけるように一緒に考えていくことが、カウンセリングの役割の 1 つであると感じています。

臨床心理士　福田　裕子